

シチズンシップ共育企画
2009 年度事業概要報告

シチズンシップ
共育企画

Planning Office for Citizenship Co-Learning.

「じぶん」になる、「しみん」になる。

〒661-0965 兵庫県尼崎市次屋 1-2-20 ハイツアメニティ 2-203
Tel 070-6506-0369 E-mail kwnk@nifty.com URL <http://homepage2.nifty.com/citizenship/>

シチズンシップ共育企画 ミッション

「じぶん」になる、「しみん」になる。

アクティブな市民になれるために。民主的な対話を実感／実現するために。

市民的リテラシーを獲得した民主主義の担い手が育つ社会の実現のために。

シチズンシップ共育企画は、「市民としての意識と行動力」が向上するための学びの場をつくる NPO です。特に、市民が社会参画していく技能の内、「コミュニケーション力」「協議力（合意形成力）」「マネジメント力」「社会問題発見力」の4つの市民力と、社会参画を支援する力（教育ファシリテーション力）を中心テーマに据えて、講座・ワークショップを実施しています。

任意団体であるシチズンシップ共育企画は、代表者である川中大輔の個人事業として、昨年末に2009年度の会計年度末を迎えました。ここに概要をご報告いたします。

1. 09年度事業報告のハイライト

- (1) ユース ACT プログラム、高校生によるまちづくり企画が実施される！
- (2) 「じぶん」を育むセルフカルチャープログラム、スタート。
- (3) 教育ファシリテーター講座、上級編を開講！
- (4) 「もう一つの教職課程」を掲げた、骨太教員養成プロジェクトが新設。
- (5) NPO マネジメント支援、担当講座件数は 81 件！
- (6) ユースナレッジマーケット、合同研修型が定着。
- (7) 財務は全体としては前年度並み。

2. 09年度事業実施体制

当会では規約に基づき、総会の下に日常的な意思決定機関として運営委員会を設置し、原則毎月1回の定例会議と、原則年2回のリトリートの合宿会議を開催しています。運営委員会では、組織全体のビジョンや各種方針を立て、事業計画案／事業報告案の策定する他、各種事業の進捗状況共有、新規企画の実施承認等を行っています。今年度は、10回の定例会議と2回（1月・4月）のリトリート合宿会議を開催いたしました。執行体制としては、事務局長のもと、主要事業についてはその責任者として事業コーディネーターを置き、プロジェクトチーム形式で事業推進に取り組んでいます。また、事務局体制としては、事務局長を補佐し、総務事務を担う非常勤職員を1名採用しています。

〈メンバー一覧〉

- ・運営委員会 川中大輔（代表・事務局長）、大本晋也、小林健司、東末真紀、三浦一郎
- ・監事 長尾文雄
- ・ファシリテーター 川中大輔、三浦一郎、鈴木陵
- ・事業コーディネーター 松村幸裕子、神野有希、鈴木陵

- ・非常勤職員 波部義広（～3月まで）、鈴木陵（4月より）
- ・ボランティア 井出大地、城木信浩、南大樹、宮岸洋輔（以上4名、3月まで）
多田菜津美、山本亜沙美、岸岡沙也加、道本裕介、南原綾
木村智子、鵜川健、谷口優樹、新妻人平、佐川育恵、

3. 09年度各事業報告

■市民教育事業（担当役員：小林）

(1)STEP（担当：神野、多田、山本、岸岡、道本、南）

高校生が社会の中で一定の責任を負い、その責任を果たす中で社会における自分の存在意義や自己効力感を見だし、自分の生き方と社会への関わりを結びつけられる教育機会の提供が必要であるとの認識に立ち、2007年度より阪神間の高校生を対象とした長期実践型 NPO インターンシッププログラムを実施しています。しかし、高校におけるボランティア学習の多くは、企画段階から NPO と教育協働して提供される体系的なプログラムは珍しく、近隣地域における簡単な体験活動か、あるいは講演会等の単発的な企画実施にとどまっています。

そうした現況において、高校生が長期実践型 NPO インターンシップのような負荷の高いプログラムへの参加意志が形成されにくく、意志形成のための段階的な学習プログラムが求められると考えられるようになりました。そこで、今年度より「STEP (Social Try, Encounter and Empowerment Project)」として、段階制のある学習プログラムのパッケージ化を進めました。

今年度は、複数の県内高校でのパッケージドプログラムの一部実施を試み、企画提案・調整を進めましたが、実施には結びつきませんでした。そこで、校外活動で段階的にプログラムを提供していく方針をとり、まず「マイコピ～高校生と大学生がつくるマイしゃかい CM～」を11月8日に実施しました（参加者2名／申込者5名）。

10年度は、当会の近隣に存在する学校外の高校生の居場所とも連携協力しながら、校外での具体的な活動提供を増やしていき、学校内／学校外のいずれでも汎用性のあるプログラムのパッケージ化を進めていきます。

(2)ユース ACT プログラム（担当：松村、井出、城木、宮岸、木村、鵜川、谷口、新妻）

若者が「まちの跡取り」としての自覚や自信を形成するためには、自らが「まち」をつくる側にまわる経験をしつつ、「まち」の多様な人びととの交わりを得て支えられる中で、「まち」への愛着と信頼を育てていくプロセスが求められると考え、2008年度から京都地域において、高校生がまちづくり企画の立案・実施・評価に一貫して取り組む市民教育プログラムとして、「ユース ACT (Active Citizenship Training) プログラム」を実施しています。

本事業の実施にあたっては、京都地域でユースワークや市民活動支援等に取り組む団体・機関〔(特)きょうと NPO センター、(特)ユースビジョン、シチズンシップ共育企画、(財)京都市ユースサービス協会、同志社大学大学院総合政策科学研究科、京都市福祉ボランティアセンター（～3月まで）〕によ

て実行委員会を形成し、様々な地域資源と高校生を仲介できる体制を整えています。当会は実行委員会の事務局を担い、本事業の具体化に向けた諸活動に取り組んでいます。

今年度は、昨年度からの参加高校生 2 名によって発案された、以下の企画が 2 つ実施されました。

・「新しい自分を見つけよう。CAMP しよう！」(1 月 10 日～11 日、参加者・スタッフ 8 名)

▷高校生が持っている、保護者や教員、友人といった既存のコミュニティの中では相談しにくい悩みについて、大学生・院生や他校の高校生といった異なるコミュニティのメンバーとの交流の中で分かち合う場をつくる取組み

・「クイズ！こどこ？ In KYOTO」(3 月 1 日、参加者・スタッフ 7 名)

▷高校生・大学生が、写真クイズラリーを通じ、学校を越えた交流を育みながら、京都のまちの文化に対する興味関心を醸成していく取組み

また、活動報告会として「『京都の跡取り』は誰!?～まちに打ち込む高校生～」を 2 月 15 日に実施、参加者 40 名を得ました。

今年度の新たな動きとしては、うずらの里児童館（京都市伏見区）と共催し、1 つのチーム（参加高校生 6 名）が現在動いています。昨年度同様、大学生サポーターの助けを受けながら、8 月に高校生が自らの「まち」への問題意識をもとにまちづくり企画の立案を行い、9 月 20 日に行われた「まちの跡取り大発掘！高校生のまちづくり企画発表会」（参加者 12 名）を経て、現在、企画実施に向けて準備に取り組んでいます。

同時に、本プログラムへの思いの共有を地域で進めるため、実行委員クロストーク「ちょっとこだけ NPO 業界研究」を実施しました（第 1 回〈10/1〉：参加者 10 名、第 2 回〈10/19〉：参加者 11 名、第 3 回〈11/12〉：参加者 9 名）。

なお、この枠組みは過年度に当会が企画協力した、大分県教育庁主催「おおいたティーンエイジリーダー育成事業」やプロジェクト未来なは主催「僕らのアクションプログラム」と似たものとなっており、現在も企画実施されている那覇の高校生との地域間交流が行われています。上記活動報告会にも、「僕らのアクションプログラム」参加高校生が参加登壇し、また「NAHA ユースフォーラム 2009」（3 月 7 日～8 日）に本プログラム参加高校生 2 名を派遣しました。

10 年度は、高校側のニーズも一定認められる、進路が決定している高校 3 年生を対象とした秋期プログラムの開発・実施に取り組むなど、発展的に継続実施していきます。

*本事業は、京都市・京都市教育委員会・京都府教育委員会・(財)大学コンソーシアム京都から後援いただき、京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金の助成を受けています。

▷専用ブログ：<http://actkyoto.jimdo.com/>

(3)セルフカルチャープログラム (担当：鈴木、川中)

当会では C.I.「『じぶん』になる、『しみん』になる。」からも明らかな通り、市民教育プログラムにおいて、市民公益活動の担い手としての成長を支援するだけではなく、同時に、一人ひとりが現代社会において自分らしく生きていけるような自己形成等の成長支援も必要だと考えています。そうした、自己の修養と尊重がなされなければ、滅私奉公的な市民教育に陥りかねません。

そこで具体的には、当会では以下の4つの視点からワークショップを開発し、実施しています。①自分に気づく（自分の気持ちや生きかたへの気づき）、②自分を表す（気持ちと考えの表現）、③自分を鍛える（世界観と学び続ける力の鍛錬）、④他者とともに生きる自分を育む（つながりへの気づきと共生の技法の修練）。今年度は、以下の4本のワークショップを実施しました。

- ・3/21, 29 「+メディア～市民活動のための情報発信講座～」(主催：地域環境デザイン研究所 ecotone、共催：シチズンシップ共育企画)(講師：太田航平さん・岩淵拓郎さん・永田宏和さん、ファシリテーター：川中大輔)(参加者：10名)
- ・6/13-14 「若者が描く未来社会のグランドデザイン～ソーシャルデザイン・ワークショップ～」(共催：(財)京都ユースホステル協会)(ファシリテーター：川中大輔・長尾文雄さん)(参加者：11名)
- ・7/5 「『お盆』を考えるワークショップ」(主催：天台宗神木山等覚院、共催：青木将幸ファシリテーター事務所・シチズンシップ共育企画)(ゲスト：青木将幸さん・川中大輔、ファシリテーター：中島光信さん)(参加者12名)
- ・11/14-15 生と死の共育ワークショップ vol.3「〈老い〉を表現する。」(共催：大蓮寺・應典院・青木将幸ファシリテーター事務所)(ゲスト：岡野真大さん・長尾文雄さん・秋田光彦さん、ファシリテーター：川中大輔・青木将幸さん)(参加者8名)

なお、この内、「生と死の共育ワークショップ」については、各人の「市民としての行動」に軸をもち、自らの人生の意味や目的を見いだす精神的な成長(spiritual grow)が必要不可欠であると考え、重視しています。特に昨今の教育現場では、「いかに働くか」を主題とするキャリア教育が盛んであり、「いかに生きるか」を主題とする教育機会が決して十分ではないとの認識から、2008年度以降は重点事業と位置づけています。

10年度は、「生と死の共育ワークショップ」に加え、共生/協働の基底をなす「対話」にフォーカスしたワークショップについても、重点的にプログラム開発を進めていきます。

▷ワークショップレポート「若者が描く未来社会のデザイン」:

<http://homepage2.nifty.com/citizenship/sdwsreport.htm>

▷実施報告：<http://homepage2.nifty.com/citizenship/kiroku.htm>

(4)講師派遣プログラム (担当：川中)

大学等の高等教育機関において、シチズンシップ教育の視点を踏まえた授業を展開するため、以下の大学等において非常勤講師として講義科目を担当しました。

- ・甲南女子大学多文化共生学科「NGO/NPO論」(履修者：38名)
- ・大阪樟蔭女子大学学芸学部「教育社会学」(春学期)(履修者：119名)
- ・岐阜県立森林文化アカデミー「NPO概論(コミュニティデザイン論)」(履修者：8名)
- ・美作大学生生活科学部「ボランティア論(福祉系)」(履修者：153名)
- ・甲南女子大学多文化コミュニケーション学科「ボランティア入門」(履修者：55名)

・大阪樟蔭女子大学学芸学部「教育社会学」（秋学期）（履修者：27名）

■ファシリテーター養成事業（担当役員：東末）

(1)教育ファシリテーター講座（担当：鈴木、川中）

学校や社会教育施設等において、オルタナティブ教育を中心に開発されてきた参加型学習やファシリテーションの技法が新たな学びあり方として注目され、その実施展開が本格化されています。また、総合的な学習の時間の導入や地学連携が進む中、NPOスタッフが学校等の教育現場において参加型学習を実施する場面も増加しています。

参加型学習の場において、学び手は「参加型の文化」を体得することになり、また、自分の頭で考え、活動と学習を統合していくスキルを習得することになります。そこで、当会では、2006年度より「教育ファシリテーター講座」を実施し、適切なファシリテーションの技法を習得できる機会を提供しています。今年度は、過年度の開催結果を踏まえ、従来の基礎編と中級編の2コースでの実施から階層化を進め、「やりかた・よみかた・ありかた」をテーマに基礎・中級・上級の3コースで実施しました。

・7/26「基礎編：ファシリテーションをものにする！」（参加者：12名）

・8/1-2「中級編：ファシリテーターの『目』を鍛える！」（参加者：17名）

・8/3-4「上級編：ファシリテーターの『マインド』を磨く！」（参加者：10名）

近年、多くの団体が様々なファシリテーション研修を実施しており、シチズンシップ共育企画として、どのようなファシリテーション研修に取り組み、どのような研修の必要性を社会に提起していくべきか、引き続き検討していく必要があります。10年度もそうした検討を踏まえた企画を行います。

▷ワークショップレポート「教育ファシリテーター講座」:

〈基礎編〉<http://homepage2.nifty.com/citizenship/edfacil0901rprt.htm>

〈中級編〉<http://homepage2.nifty.com/citizenship/edfacil0902rprt.htm>

〈上級編〉<http://homepage2.nifty.com/citizenship/edfacil0903rprt.htm>

▷開催告知：<http://homepage2.nifty.com/citizenship/edufacil09.htm>

▷実施報告：<http://homepage2.nifty.com/citizenship/kiroku.htm>

(2)学びのデザイン研究会（担当：川中、鈴木）

関西地域のファシリテーターのネットワーク化と、形式知化される前の現場レベルでの実践知を共有する場として、当会では2006年度より「学びのデザイン研究会」を不定期で開催しています。今年度は5回の研究会を実施しました。

・第21回「全校職員研修で、先生方の参加型の学びをどう伝えるか？」（発題：大本晋也）（3月25日）（参加者8名）

・第22回「大学の授業を参加型にすると…」（発題：伊藤博之さん・三浦一郎）（6月22日）（参加者13名）

- ・ 第 23 回 「"ワールドカフェ"をやってみよう！」（発題：東末真紀）（7 月 22 日）（参加者 8 名）
- ・ 第 24 回 「教育ファシリテーター講座を解体する～実習からの学びをどう深めるか～」（発題：鈴木陵・川中大輔）（9 月 29 日）（参加者 5 名）
- ・ 第 25 回 「パブリックコンサルテーションの議論をどう機能させるか？～WWViews in Japan の事例から考える政策形成における市民参画の新たな手法とその課題～」（発題：川中大輔、ゲスト：東末真紀・大滝あやさん、八木絵香さん）（11 月 25 日）（共催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター）（参加者：11 名）

▷開催記録：<http://homepage2.nifty.com/citizenship/study.htm>

(3)骨太教員養成プロジェクト（担当：松村、川中）

学校教育を巡る様々な変化の中で、既存の教職課程や教職志望学生支援の取り組みが、教員養成上のニーズに十分に答えきれていない部分があるのではないかと考え、以下の外部委員と共に「骨太教員養成プロジェクト」を今年度新たに設けました。同プロジェクトでは、教員養成における現状課題や支援ニーズに関する協議検討の場として、委員会を 4 回実施し、また、現役学生および若手教員を対象とした「4 月から教壇に立つために必要な身支度を考えるワークショップ」（参加者 11 名）を 9 月 19 日に実施しました。

これらの検討の結果として、着任してすぐに現場の第一線で活躍することが求められるものの、その支援は十分とは言い切れず、採用前後の支援ニーズが高いとの認識に至り、「採用前研修の提供」と、「採用後の若手教員コミュニティ形成」に軸をおくこととなりました。10 年度は試行プログラムの実施も含め、プログラム開発を進め。本格的なプログラム提供へと展開していきます。

[骨太教員養成プロジェクト委員（五十音順・敬称略）]

- 新崎国広（大阪教育大学教育学部准教授）
- 枝広和憲（立命館大学産業社会学部子ども社会専攻 PSTROOM 指導支援主事）
- 大本晋也（シチズンシップ共育企画運営委員）
- 川中大輔（シチズンシップ共育企画代表）
- 富本水子（神戸市立藤原台小学校教諭）
- 深水正和（兵庫県立明石城西高等学校教諭）
- 水野篤夫（(財)京都市ユースサービス協会事業部長）
- 山下順子（兵庫県立星陵高等学校教諭）
- 山本智也（京都ノートルダム女子大学生生活福祉文化学部教授）

▽オブザーバー

- 三浦一郎（兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士課程）
- 土井博報（神戸大学発達科学部）

■協働推進事業（担当役員：大本）

(1)ERC（教育リソースセンター）（担当：三浦、南）

NPO等の地域の教育資源と高等学校との「教育協働」を促進するため、外部委員の協力を得ながら、「ERC（教育リソースセンター）」の設置準備に昨年度より取り組んでいます。今年度は、昨年度県内高等学校に対して行った、教育協働の実態およびその阻害要因にかかるアンケート調査の分析を行い、今後の具体的な活動内容の検討を進めました。その結果、NPOの教育力の可視化や学校側が協働を検討する際に必要となるNPOの情報開示の必要性が明らかとなりました。10年度は、今年度の検討結果を踏まえ、ウェブサイトにおける情報提供に向けて準備を進めていきます。

[ERC委員（五十音順・敬称略）]

大滝あや（環境教育事務所 Tao 舎代表）
大前吉史（兵庫県立兵庫高校教諭）
大本晋也（兵庫県教育委員会事務局社会教育係長）
荻田藍子（(社福)兵庫県社会福祉協議会）
川島憲志（フリーランス）
川中大輔（シチズンシップ共育企画代表）
東末真紀（(特)神戸まちづくり研究所）
松井寛泰（ひょうごボランタリープラザ）

(2)神戸市協働と参画のプラットフォーム受託事業（担当：川中）

2007年度から引き続き、神戸市市民参画推進局から「協働と参画のプラットフォーム」における「NPOとの協働に関する研究・調査業務および協働コーディネート業務」を受託し、市民参画のまちづくりの推進に取り組みました。

具体的には、市民提案型協働事業助成であるパートナーシップ活動助成の評価検証業務および付随する調査研究、NPOや地域団体と神戸市の協働コーディネート業務（相談対応等）、庁内向けの意識啓発業務等を行いました。過年度より継続担当している、地域団体とNPOの協働推進を図る「神戸市市民円卓会議」では、協働事例集『地域協働ちえぶくる』の発行や、市内数カ所での小中学校区単位の「地域円卓会議」の実施に向けた準備が進められました。

協働と参画のプラットフォームの協働コーディネート業務については、10年度も継続的に受託できるように努め、NPOと行政の協働、地域団体とNPOの協働について、相互理解の促進と、適切な協働／深い協働の進展に取り組んでいくことを目指し、市民参画のまちづくりの進展に貢献します。

■NPO支援事業（担当：川中）

(1)講師派遣プログラム（担当：川中）

「市民としての行動力」が社会において具体的に発揮されるためには、思いをカタチにしていくマネジメントスキルが必要不可欠となります。そこで、当会代表の川中は当会設立以前の2001年より

NPO マネジメント講座の講師依頼を積極的に引き受け、当会が設立された 2003 年度以降、全国各地で講座を担当しています

今年度は、一年間で 81 件（参加者計約 2050 名） の講座へ講師派遣を行いました。下表はご依頼いただいた仕事をテーマ別で分類したものです。

テーマ	件数 (09←08←07←06 年度)	テーマ	件数 (09←08←07←06 年度)
マネジメント概論	4 (←3←4←2)	会議・ファシリテーション	17 (←10←8←7)
企画	9 (←9←8←6)	広報	0 (←4←3←7)
ボランティアマネジメント	3 (←4←2←8)	リーダーシップ・人材育成	9 (←5←5←5)
評価	2 (←3←2←8)	中長期戦略・ビジョン	2 (←6←0←0)
NPO 支援の基礎	1 (←2←1←0)	協働	10 (←15←4←1)
時間管理	4 (←0←0←0)	まちづくり	5 (←2←3←0)
市民教育	4 (←4←0←0)	政策提言	4 (←0←0←0)
ライフデザイン	3 (←2←1←1)	その他	4 (←3←0←0)

過年度より当会に依頼の多い「会議・ファシリテーション」や「企画」については、今年度も堅調に一定の依頼数があり、ほぼ同様の規模でニーズが存在し続けていることが分かります。

また昨年度から大きな傾向として、急増した「協働」については、多くのご依頼をいただきました。「新たな公共観」の浸透により、協働の必要性が一層高まっていることの現れでしょうが、「理念の啓発」から「実践的な推進」にニーズの重心は移っており、今後、具体的なコーディネーションにかかる課題が増えていくと思われます。

また、「リーダーシップ・人材育成」についても微増していることが分かります。NPO 法施行 10 年を過ぎ、メンバーを束ねながらも、新たな変化を創りだしていくリーダーシップの開発が一定のニーズとして現れてきているのかもしれませんが、引き続き、注視したいと思います。

10 年度は、従来からの講座プログラムの充実化に加え、近年の増加ニーズに適切に応えられるよう、プログラムの開発を図り、依頼件数の増加を目指します。

- ・ 1/10-11 ひょうご NPO ユース「なぜ NPO で働くのか？」ファシリテーター（27 名）
- ・ 1/15 財団法人児童育成協会「地域に置ける中高生活動ファシリテーター講習会 in 京都」中
高生活動を促進させるスタッフの関わり方」ファシリテーター（47 名）
- ・ 1/19 尼崎市女性センター・兵庫県・連合兵庫・兵庫県経営者協会「労使合同ワークショップ：子育て女性の理想の職場とは」ファシリテーター（22 名）
- ・ 1/19 川西市役所「協働のまちづくりワークショップ」「第 8 回：『協働のまちづくりワーク
ショップ』を総括する」ファシリテーター（30 名）
- ・ 1/23 千葉市「コーディネーター・ファシリテーター養成講座」第 1 回「コーディネーター・
ファシリテーターの役割と上手な会議の進め方」講師（30 名）
- ・ 1/24 三田市 NPO 法人連絡協議会「市民と行政と一緒に協働を学ぶワークショップ」講師（25

名)

- ・ 1/26 諏訪郡原村「げんきパワーアップ教室」「スローライフで健康な村をめざす」ファシリテーター (15名)
- ・ 2/5 京都市社会福祉協議会「障害のある子どもの放課後・休日をみんなで支えるフォーラム」分科会「ボランティアのハートをガッチリつかむ！」講師 (25名)
- ・ 2/6 千葉市「コーディネーター・ファシリテーター養成講座」第2回「上手な意見の整理とメンバーの納得度の高い合意形成のつくりかた」講師 (30名)
- ・ 2/9 ユースビジョン「大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーのための『マネジメント力』向上セミナー2009」「私のリーダーシップをデザインする」講師 (30名)
- ・ 2/13 兵庫県教育委員会「平成20年度兵庫県学校支援地域本部事業第2回コーディネーター等研修講座」分科会「学校と地域をつなぐ兵庫県学校支援地域本部事業について考える」ファシリテーター (25名)
- ・ 2/17-18 同志社大学「リーダーズキャンプ09」講師 (96名)
- ・ 2/19 生きがい仕事サポートセンター阪神北「コミュニティビジネスゼミナール」、第1回「協働のまちづくりのためのファシリテーションスキルアップ講座」(7名)
- ・ 2/19 大正区役所「生涯学習推進員・はぐくみネットコーディネーター合同研修会」ファシリテーター (22名)
- ・ 2/21 京都市児童館学童連盟「子育てボランティアバンク交流研修会」ファシリテーター (16名)
- ・ 2/24-25 総合幼児教育研究会「指導者トレーニング研修(九州地区)」講師 (9名)
- ・ 2/28 北九州市「NPO・ボランティアのためのパワーアップセミナー」、第4回「現場で使えるアンテナみがき」講師 (13名)
- ・ 3/1 市民活動センター神戸「NPOによるNPOのためのマネジメント支援を考える」コメンテーター (15名)
- ・ 3/2-3 総合幼児教育研究会「指導者トレーニング研修(関東地区)」講師 (12名)
- ・ 3/5-6 総合幼児教育研究会「指導者トレーニング研修(近畿地区)」講師 (12名)
- ・ 3/8 A SEED JAPAN「Heart to Soul」、「A SEED JAPANは何をすべきか？」ファシリテーター (23名)
- ・ 3/12 生きがい仕事サポートセンター神戸西 NEXT「(直前)助成金獲得のための秘テク伝授します！」講師 (18名)
- ・ 3/17 京都市市民活動総合センター「職員研修」「実践から取り出すボランティアコーディネーションの技術」(9名)
- ・ 3/19 神戸市役所「まちづくり関係職員評価・検証プログラム」講師 (12名)
- ・ 3/20 京都学生祭典研修「リーダーシップ研修」講師 (16名)
- ・ 3/23-24 総合幼児教育研究会「指導者トレーニング研修(北関東地区)」講師 (14名)

- ・ 3/30-31 イエス団「愛隣館スタッフ研修」ファシリテーター（23名）
- ・ 4/9 川西市役所「協働のまちづくりワークショップ」、「番外編：報告書をチェックする」ファシリテーター（30名）
- ・ 5/14 神戸ワークショップ研究会「事例発表～川西市『協働のまちづくり』ワークショップ」発表者（18名）
- ・ 5/29 瑞穂市社会福祉協議会「ボランティアリーダー研修会」、「リーダーシップとコミュニケーション」講師（44名）
- ・ 6/4 同志社大学「コミュニティ・デザイン論」、第8講「中間まとめ～改めてコミュニティ・デザインとは」ゲスト（9名）
- ・ 6/8 家の光協会「平成21年度地区別JA生活文化活動担当者研究集会（東日本会場）」、「活動のマンネリ化を打破するために」講師（133名）
- ・ 6/10 神戸市役所「まちづくり関係職員研修（ベーシックプログラム）」、「地域の人と信頼関係をつくるコミュニケーション」講師（32名）
- ・ 6/15 家の光協会「平成21年度地区別JA生活文化活動担当者研究集会（西日本会場）」、「活動のマンネリ化を打破するために」講師（162名）
- ・ 7/9 家の光協会「平成21年度地区別JA生活文化活動担当者研究集会（中日本会場）」、「活動のマンネリ化を打破するために」講師（約100名）
- ・ 7/17 生きがい仕事サポートセンター神戸西 NEXT「会議のコツ～会議によく効くファシリテーション講座」講師（16名）
- ・ 7/19-20 天隣乳児保育園「2009年度職員研修会」、「チームワークを強化する！」講師（17名）
- ・ 7/27 高校生チャレンジ！大学生サポート実行委員会「学習会・高校生による地域活動の支援について」講師（約20名）
- ・ 7/30 総合幼児教育研究会「第26回総合幼児教育研究大会」、分科会（主任研修）「職員個々の能力を伸ばすコーチングの技法」講師（66名）
- ・ 8/5 愛隣館「愛隣館職員研修」、「人が育つチームをつくる！リーダーの役割」講師（約20名）
- ・ 8/8 清瀬市民活動センター・きよせボランティアセンター「市民活動団体研修講座」、「効果的な会議の持ち方」講師（36名）
- ・ 8/28 パドマ幼稚園「21年度夏期職員研修」、「論理的な考えかた・伝えかた」講師（32名）
- ・ 8/28 尼崎市役所「新任役職者研修」、「NPOの活用を図る」講師（約60名）
- ・ 9/6 ネットワーク太子の風「私が太子町に貢献できること（団塊世代等地域づくり活動きっかけづくり支援事業）」講師（27名）
- ・ 9/7-8 全国地球温暖化防止活動推進センター「運営戦略研修」、「自治体とのパートナーシップをどう深めるか」ファシリテーター（18名）

- ・ 9/11 鳥羽市役所「鳥羽市らしい健康づくりを考える（市民参加型ワークショップ）」ファシリテーター（18名）
- ・ 9/13 第15回全国社協職員の集い「京都実行委員会」・関西社協コミュニティワーカー協会「第15回全国社協職員の集い」、分科会「脱『去年と同じ』～"ちょっと自分色"を伝える仕事のコツとプレゼン方法～」講師（30名）
- ・ 9/15 家の光協会「家の光事業・生活文化活動担当者研修会（会場：JA青森中央）」、「『今あるもの』の活用から新しい展開を拓く」講師（16名）
- ・ 9/17 都島区生涯学習推進委員会「都島区役所地域協働学習プログラム開発事業企画会議」、「第1回会議」ファシリテーター（9名）
- ・ 9/25-26 大阪大学・上智大学・北海道大学 CoSTEP「WWWViews in Japan」グループファシリテーター（5名）
- ・ 10/1 都島区生涯学習推進委員会「都島区役所地域協働学習プログラム開発事業企画会議」、「第2回会議」ファシリテーター（6名）
- ・ 10/5 神戸市役所「神戸市まちづくり関係職員研修」、「ケーススタディプログラム」講師（26名）
- ・ 10/7 京都府「ふるさと京都、夢・知恵・元気わくわく塾」、「ファシリテーター能力養成講座」、「体験してみる～ファシリテーションのある風景～」講師（20名）
- ・ 10/9 JA岡山中央会「JA生活担当者スキルアップ研修会」、「魅力的な企画づくり」講師（25名）
- ・ 10/14 京都府「ふるさと京都、夢・知恵・元気わくわく塾」、「ファシリテーター能力養成講座」、「やってみる～ならうよりなれる～」講師（16名）
- ・ 10/17 総合幼児教育研究会「指導者トレーニング研修会（九州地区）」「限りある時間をどう活かすか？」講師（11名）
- ・ 10/21 京都府「ふるさと京都、夢・知恵・元気わくわく塾」、「ファシリテーター能力養成講座」、「考えてみる～こんなときはどうする？～」講師（20名）
- ・ 10/25 日本歯科衛生士会九州ブロック連絡協議会「研修会～会員拡大・組織運営～」講師（45名）
- ・ 10/26 都島区生涯学習推進委員会「都島区役所地域協働学習プログラム開発事業企画会議」、「第3回会議」ファシリテーター（3名）
- ・ 10/29 (独)科学技術振興機構「自律型対話プログラムによる科学技術リテラシーの育成」研究開発プロジェクト・実習ビデオ評価作業（川中・三浦・鈴木）
- ・ 10/31 総合幼児教育研究会「指導者トレーニング研修会（関東地区）」「限りある時間をどう活かすか？」講師（3名）
- ・ 11/1 関西学院大学新月祭実行委員会「同窓生講演会～流される人生か？流れをつくる人生か？」講師（約30名）

- ・ 11/7 総合幼児教育研究会「指導者トレーニング研修会（北関東地区）」「限りある時間をどう活かすか？」講師（16名）
- ・ 11/9 奈良県商業振興課「商店街次世代リーダー育成塾」「合意形成を導き地域の活性化に」講師（16名）
- ・ 11/11 京都市社会福祉協議会「地域福祉・ボランティアセンター推進連絡会議」「ボランティアコーディネート研修」「ボランティアセンター事業の企画・立案に関する講義と実習」講師（21名）
- ・ 11/12 宝塚市立男女共同参画センター「市民活動応援セミナー」「人やまちが元気になる政策提言」「第1回 政策って何だ？～わたしたちのまち、これが問題！～」ファシリテーター（11名）
- ・ 11/19 宝塚市立男女共同参画センター「市民活動応援セミナー」「人やまちが元気になる政策提言」「第2回 女性の視点で『政治』を動かす～意思決定の場への／からのチャレンジ～」ファシリテーター（参加者：12名）
- ・ 11/21 総合幼児教育研究会「指導者トレーニング研修会（近畿地区）」「限りある時間をどう活かすか？」講師（参加者：17名）
- ・ 11/26 宝塚市立男女共同参画センター「市民活動応援セミナー」「人やまちが元気になる政策提言」「第3回 政策案を持ってまちへ出よう！～説得力を高める市民調査～」ファシリテーター（参加者：11名）
- ・ 11/27 立命館大学産業社会学部「ユースサービス概論」「ユースサービスの実践から学ぶ(7) 政治参加／社会参加と青少年」ゲスト講師（参加者：10名）
- ・ 11/28 パドマ幼稚園「職員研修」「目標を自分の成長に活かす」講師（参加者：38名）
- ・ 11/29 神戸大学総合ボランティアセンター「スタッフ研修」講師（参加者：30名）
- ・ 12/1 JA愛媛中央会「プランナー研修会」講師（参加者：21名）
- ・ 12/2 エコライフめぐる「めぐる環境ナビゲーター養成講座」「ワークショップを行う際のファシリテーターとしての技法」講師（参加者：17名）
- ・ 12/11 立命館大学産業社会学部「ユースサービス概論」「ユースサービスの基本プロセスを学ぶ～企画の立て方を学ぶ～」（参加者：8名）
- ・ 12/12 静岡県立大学若者エンパワーメントセンター設置委員会「静岡の元気は若者から」「京都市における若者自立支援～ユース ACT の取組み～」講師（参加者：18名）
- ・ 12/17 宝塚市立男女共同参画センター「市民活動応援セミナー」「人やまちが元気になる政策提言」「第5回 これが「わたし」の政策！」ファシリテーター（参加者：11名）
- ・ 12/18 宝塚市役所・宝塚NPOセンター「行政とNPOの協働を進めるためのセミナー」、第1回「NPOとの協働のための基礎知識」講師（参加者：7名）
- ・ 12/19 阪神NPO連絡協議会「10年後のNPO～私たちの未来図を語ろう！～」ファシリテーター（参加者：14名）

- ・ 12/20 沖縄大学「思いを形にするミーティング基礎講座」講師（参加者：14名）
- ・ 12/20 沖縄大学「ワークショップ・ファシリテーション実習」講師（参加者：11名）

▷ 報告レポート：<http://homepage2.nifty.com/citizenship/kiroku.htm>

(2)ユースナレッジマーケット（担当：川中、鈴木）

市民公益活動に取り組む学生団体は、年々増加傾向にあり、各大学の支援体制も充実傾向にあります。しかし、メンバーの入れ替わりの激しい学生団体においては、マネジメントの発展が難しく、一定水準の活動に終始する傾向が見られます。そこで、当会では「若者のチカラを社会のチカラに」をスローガンに、2006年度より学生団体のマネジメント支援の取組みとして、学生団体に対象を限定した研修会「ユースナレッジマーケット」を実施しています。

今年度の本プログラムには、CLUB GEORDIE、関西学院ヒューマンサービスセンター、Reuniv、コミュニティスペース PECO の4団体が継続参加し、年間を通して5回の研修を実施しました。研修テーマの検討にあたっては、各参加団体の役員と一緒にいき、事務局も持ち回り制として、協働での事業実施に努めました。

10年度は、参加学生団体のニーズを踏まえながら、合同研修型による開催に加え、幹部向けの集合研修も開催し、学生団体支援の拡充を図ります。

- ・ 番外編「自分たちがつくる社会予想図」(1/17)（参加者 17名）
- ・ #8「新年度の活動方針をたてる！」(2/7-8)（参加者：39名）
- ・ #9「思いをカタチにするチームになる！」(6/20-21)（参加者：63名）
- ・ #10「思いが伝わる！広報研修」(8/9)（参加者：21名）
- ・ #11「活動を通して『自分』はどう変わったか？」(11/29-30)（参加者 10名）

▷ 報告レポート：<http://homepage2.nifty.com/citizenship/kiroku.htm>

(3)外部委員（担当：川中）

NPOの支援活動として、研修・講座のみならず、以下の機関の外部委員として助言指導や審査等を行いました。

- ・ (特)まちなか研究所わくわく理事
- ・ (特)BrainHumanity フェロー
- ・ (財)京都市ユースサービス協会企画委員会委員
- ・ 京都市青少年活動推進協議会専門委員会委員
- ・ 尼崎市総合計画審議会委員
- ・ 尼崎市きょう Do 検証会議委員
- ・ 兵庫県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター機能強化指標検討委員
- ・ ひょうご NPO ユース世話人
- ・ 愛知県ユースワーカー地域連携事業アドバイザー

- ・葛飾区「市民活動（NPO）との協働事業提案制度」審査会委員（～3月まで）
- ・(財)大学コンソーシアム京都リエゾン・アドバイザー（～3月まで）

(5)原稿執筆（担当：川中）

NPO 支援や活動紹介に関する原稿を情報誌等で執筆しています。今年度に執筆・掲載されたものは以下の通りです。

〈寄稿〉

- ・川中大輔 2009 「アイスブレイクとその技法」、長沼豊編『学校ボランティアコーディネーション』筒井書房、pp.172-188
- ・川中大輔 2009 「21世紀社会における若者の変容」、『小中学生を対象とした通年型冒険教育プログラムにおける青年リーダーへの効果検証』ブレンヒューマニティー、pp.2-10
- ・鈴木陵・川中大輔 2009 「ソーシャルディープインパクトの与えかた」（セミナーレポート）、『NPO マネジメント』59号、IIHOE、pp.68-72

〈定期連載執筆〉

- ◎ 『NPO マネジメント』（IIHOE 刊行）、「誌上マネジメント相談」コーナー
 - ・「『紙でお届けするニュースレター』の意義は？」（誌上マネジメント相談）、『NPO マネジメント』第59号、pp.14-16
 - ・「団体からの相談に答える力や技術を、組織に蓄積するには？」（誌上マネジメント相談）、『NPO マネジメント』61号、IIHOE、pp.14-16
 - ・「他団体や研修・書籍などで学んだことを、自分たちの活動に生かすには？」（誌上マネジメント相談）、『NPO マネジメント』63号、IIHOE、pp.15-17
- ◎ 『種まき』（A SEED JAPAN 刊行）、「すけさんの一期一会」
 - ・第6回「若者と政治の距離を近づける人」、『種まき』114号、p.14

4. 09年度決算のトピックス

■収入の部

(1)講師派遣料収入は大幅増

NPO マネジメント関連の研修・講座が中心の講師派遣料については、前年比約 100 万円増となっています。1 件あたりの単価は概ね横ばい傾向ですが、件数が増加したことが背景となっています。10 年度も件数は横ばい傾向を保てると見込まれますが、単価の低い行政が関係する協働に関する依頼件数が増えていることから、講師派遣料収入については横ばいまたは減少が予測されます。適正価格に基づく依頼増加のため、適宜必要に応じて価格交渉を 10-年度も引き続き行うようにします。

(2)主催事業収入は概ね横ばい

主催事業については、その事業数は増加したことに伴い、前年比約 50 万円増となっています。し

かし、当会の主催事業の利益率は低く、収入の増加が利益の増加に結びついていません。10年度は、利益率の向上改善や、新たな自主財源となる新規事業デザインに取り組んでいきます。

(3)委託事業収入は大幅減

委託事業収入については、前年比約150万円減となっています。これは昨年度に単発的な受託業務が増えたことが大きく、予想された減少です。この減少により、上記収入の増加が相殺され、収入全体としては、昨年度並みの事業規模になりました。もちろん、委託事業収入も組織としては、重要な収入源であり、依存することがないように留意しつつも、継続的に一定規模の受託を継続できるよう、努めていきます。

なお、2008年度に掲げた委託料収入を事業収入の40%以下とする財務規律目標については、24.7%となり達成されましたが、その要因として、講師派遣料収入が増えたことがあるものの、委託料収入が減ったことが大きく影響しています。事業規模がある程度あがっていく中でも財務規律目標が達成できるよう、自主財源の拡充を目指していきます。

■支出の部

今年度の管理費支出においては、従来から支出額の高かった「給料手当」「地代家賃」に加え、前年度から上昇傾向にある「新聞図書費」が大きな支出項目となっています。当会の業務上、情報収集・専門知識の習得は重要であり、一定の支出は妥当であると考えていますが、現在の経費増の傾向が継続することは組織的な負担としては望ましくありません。10年度には、新聞図書購入に制限をかけながら、支出抑制にも取り組みます。特に10年度からは職員体制を拡充することに伴い、人件費の大幅な増加が見込まれます。収入の増加に向けた取り組みと並行して、こうした経費の支出削減の必要性は大きく高まるものと考え、支出精査に厳しくあたります。

事業支出としては、前年度同様、講師派遣の増加に伴い交通費が、主催事業の増加に伴い施設使用料が大きな支出となっています。10年度もこの傾向は継続することが考えられますので、他の支出項目の抑制を図るよう努めます。

■全体を踏まえて

全体として、収支ともにほぼ前年度並みであり、当期差益についても前年度同様、約170万円（前年比10万円減）を生み出しました。これにより繰越金は約630万円となりました。今後の経済動向の不安定さに備え、一定額は内部留保しつつも、繰越金については、NPOとして新規の市民公益事業の開拓に用い、戦略的に社会再投資していくことが望まれていると考えます。本件は過年度からの課題でもあり、10年度には、具体的な社会再投資の計画を進めるようにします。

おわりに

2009年度、当会が関わったプログラムは約111件（前年比約は11件増）となり、参加者延べ総

数は約 2800 名（前年比約は 600 名増）となりました。今年度は前年度に引き続き、量的な発展が進んだ年度であったと概括できます。同時に、新規事業のための企画検討も進み、質的な発展に向けての仕込みも進んだ年度であったとも概括できます。10 年度には、今年度の仕込みが具体化されていき、量・質ともに発展することを目指したいと考えます。

しかし、当会のミッションに直結している既存の市民教育事業の各企画については、参加者確保が引き続き課題となっており、新規事業開発と並んで既存事業の拡充に向けた検討と改善行動が求められています。10 年度は、ニーズ調査や他機関との協働・連携を進めながら、市民教育事業の発展に注力します。その際、単純な量的な発展ではなく、他地域で普及され得るモデル性を保つよう、質的な発展にも留意します。

財政的には、前年度並みの収支となりましたが、不安定さは依然として続いていることに変わりはありません。今後も自主財源率の向上に努め、基礎固めを進めてまいります。

「新たな公共」という、「公共」観の変化が唱導される時代にあって、市民社会の担い手を育むという当会に課せられている大きな社会的責任は高まるばかりです。その責任を果たし、市民社会の成熟に貢献できるよう、今後もスタッフ一同邁進してまいります。引き続き、関係各位の多大なるご協力とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

シチズンシップ共育企画

代表 川中大輔